

放射線審議会 第160回総会  
議事次第

1. 日 時： 令和5年12月7日(木) 13:00～15:00

2. 場 所： 原子力規制委員会 会議室 BCD  
(東京都港区六本木1丁目9-9 六本木ファーストビル 13階)

3. 議 題

- (1) 眼の水晶体の等価線量限度の見直しに係るフォローアップについて  
-医療従事者の被ばく低減に向けた取組と被ばく線量の状況について-
- (2) 実用量の新たな定義の概要及び取り入れに当たっての課題等について
- (3) 屋内ラドンの今後の検討の進め方について
- (4) 第7回ICRP国際シンポジウムの報告
- (5) その他

4. 配布資料

- 160-1号： 医療従事者の被ばく低減に向けた取組と被ばく線量の状況について(厚生労働省提出資料)
- 160-2号： 外部被ばく管理に用いられる実用量の新たな定義について(産業技術総合研究所 黒澤AIST Solutions室付提出資料)
- 160-3号： 放射線審議会第159回総会を踏まえた屋内ラドンの今後の検討の進め方案
- 160-4号： 放射線防護体系に関する第7回国際シンポジウム(7th International Symposium on the System of Radiological Protection; ICRP2023)の開催報告(神田委員提出資料)

参 考 資 料1:放射線審議会委員名簿

参 考 資 料2:放射線審議会 第159回総会議事録

参 考 資 料3:放射線障害防止の技術的基準に関する法律(昭和三十三年五月二十一日法律第百六十二号)

参 考 資 料4:放射線審議会運営規程(制定 昭和33年6月30日 放射線審議会)

参 考 資 料5:「実効線量係数・排気中または空気中の濃度限度・廃液中または排水中の濃度限度等、実効線量の使い方」に関する今後の審議の進め方に係る中間的な取りまとめ(令和2年1月 放射線審議会)

参 考 資 料6:実効線量係数等(ICRP2007年勧告の取入れ)及び実用量の今後の進め方について(第158回総会資料158-1-1号)

参 考 資 料7:我が国で実施された屋内ラドンに関する調査を踏まえた屋内ラドンへの対応の  
在り方について(第159回総会資料159-2号)

(常備資料)

- ① 放射線障害防止の技術的基準に関する法律及び関連法令
- ② 原子力規制委員会が放射線審議会の委員等の任命を行うに当たっての透明性・中立性を確保するための要件等について
- ③ ICRP1990年勧告(Pub.60)の国内制度等への取入れについて(意見具申)
- ④ 国際放射線防護委員会(ICRP)2007年勧告(Pub.103)の国内制度への取入れについて  
-第二次中間報告-
- ⑤ ICRP Publication 103 国際放射線防護委員会の2007年勧告(翻訳版)
- ⑥ IAEA GSR(Part3, Part7)
- ⑦ 放射線防護の基本的考え方の整理 放射線審議会における対応
- ⑧ 東京電力福島第一原子力発電所事故の教訓を踏まえた緊急時被ばく状況及び現存被ばく状況における放射線障害防止に係る技術的基準の策定の考え方について(詳細版及び概要版)
- ⑨ ICRP Publication 126 ラドン被ばくに対する放射線防護(翻訳版)
- ⑩ IAEA SSG-32 Protection of the Public against Exposure Indoors due to Radon and Other Natural Sources of Radiation